



親子の私立中学受験講座第Ⅱ部開催

7月11日(土)に、「親子の私立中学受験講座第Ⅱ部」が開かれ、2009年度の私立中学入試問題の分析結果が発表されました。今年の変更点は、発表の順番が大きく入れ替わったことです。社会、理科、国語、算数の順で発表が行われました。各教科の分析結果(総論)は以下のようになります。

社会 「社会は暗記」と思われがちですが、入試問題は暗記だけでは、とても太刀打ちできません。入試に打ち勝つには、日頃からの社会的興味と関心、それに加えて幅広い常識力が必要です。

時事問題はある意味決定的に重要です。特に今年は選挙の年にあたりますので、来年度入試は選挙のオンパレードになるでしょう。世の中の動きには絶えず注目する必要があります。(舟本)



理科 今年の入試問題でも「二極化」の傾向が伺えます。難関校・中堅校では入試問題は難化の傾向にあるといつてよいと思います。その手法としては、記述や作図の問題を増やす学校と、計算問題を多くする学校とがあるようです。今年度の分析でも、難関校では前者の傾向が、中堅校では後者の傾向が伺えます。

記述問題は実験や観察に関する考察が中心ですので、こうした練習をきちんと積んでおかななくてはなりません。グラフを描かせたり、配線図を書かせる設問も増えていっていますので、普段から授業の板書を丁寧に写すなどして、意識した学習を進めましょう。

一般的に、化学・物理分野などに比べて、易しいイメージのある生物・地学分野ですが、膨大な文章を読ませたり、こみ入った実験を行ってその考察をさせるなど難化の傾向が伺えます。日本で皆既日食がありましたので、来年度入試は天文の出題に要注意が必要でしょう。(榎原)

国語 今年度は逗子開成中学の入試問題を取り上げてみました。最後にある条件作文の出来不出来が国語の試験では合否に大きく関わったのではないのでしょうか。国語での得点を伸ばすためには配点の高い記述式問題でいかに得点を稼ぐかになってきます。

客観的に文章を捉えることを前提として、自分の考えを文章とすること、この傾向は今後の受験においては避けられないこととなってきそうです。それにむけて今必要とされることは、自分の考えを文にまとめるという、いわゆる作文の練習であると思われます。こういったものなしに、本番の試験で良い文章が書けるといことは困難であると考えられます。普段から意識的に自分の考えを文章として書くということが最善の方法であると思われます。また、既存の文章をまとめるという作業も読解力を養う大きな助けとなります。(吉川)

算数 最近の算数入試問題は、基本・標準問題を中心とする「基本重視型入試」の傾向が強くなっています。その中で、今春の入試はグラフの問題、規則性の問題、図形の移動の問題、数の発展的な問題などが多く出題され、全体的には難化したように感じられます。また、女子校を中心に考え方・求め方・途中の式など、問題を解く過程を書かせる学校が増えてきました。普段から「計算式をしっかり書く」、「線分図や面積図を書いて考える」など、ノートの手書き方を意識する必要があります。特殊算は、例年と比べると出題数が大幅に減少しました。(二宮)

夏休み講習会もⅡ期が終了し、ほぼ半ばまで進みました。二〇〇九年度のことになります。今年度から、小学部湘南コースと中学部を三月開講とし、年度変わりの矛盾を解消できるようにしました。中学受験コースは従来通り二月開講でしたので、二月・三月の時間割の編成が多少手こずりましたが、特に学年末テストを控えた中学部にとっては、カリキュラムの組みやすさや日程になったことと思います。▼昨年度の後期より始めた「弱点克服道場」が人気を集めました。講師の空いている時間をやりくりして、苦手教科・単元を個別に指導するもので、他塾に例を見ない格安の料金設定もあり、この夏の道場においては申し込み受付時に窓口に行列がでるほどの盛況ぶりでした。受講した生徒のテスト結果などを見ると、少しずつ効果が現れてきているように感じます。ご父母からの強いご要望もあり、できるだけ多くの生徒の面倒を見れるようにと、後期の道場は定員を見直して募集することになりました。また、六年受験生を対象とした「月曜特訓」も九月より始まります。中学別・単元別の講座を用意しています。▼公立中高一貫校受験を目指す「公立受験コース」の授業体系を見直し、週二日の授業のうち、一日を適性検査対策の授業、もう一日を国語・算数の授業とし、講師四人による指導としました。これにより、適性検査対策に偏った授業ではなく、小学校での授業や中学入学後の学力の安定を図ることが出来ます。毎月受験している有伸テストでもその成果は着実に現れてきています。また、担当講師が四人になったことにより幅広い視点からの受験指導が可能となりました。後期からは六年生を対象とした月曜特訓を開始し、適性検査の演習を行います。▼中学部では、二〇一一年度の新学習指導要領の完全実施へ向けて、理系科目中心に移行措置が始まり、テキストの見直し・作成の作業に追われた感があります。個人的には、現在後期テキストの作成に取りかかっているのですが、各教科とも綿密にカリキュラムの再編成を行い、対応にあたっています。▼各学年の父母会の方を見直し、中学部では「学習相談会」として、ご父母からの意見を聞きながら、ご相談に応じる形式とさせていただきます。また、父母面談の回数当初の予定より増やし、きめ細かい学習・進路指導を行えるようにいたしました。▼夏休み講習会が終われば、後期が開講します。中学生はすぐに期末テストがあります。また、六年生は合不合格判定テストや適性検査模試も始まります。受験に向けていよいよ後半戦がスタートです。(榎原)

大盛況 夏の「道場」

この夏、土曜日を中心に行われている「弱点克服道場」が大盛況です。「道場」とは、各自の苦手科目や単元を中心に、個別指導形式で授業するものです。

受験コースの六年生の場合、やはり算数や理科に申し込みが殺到しましたが、すぐにすべてのコマが埋まってしまうほどの盛況ぶりでした。五年生の場合、やはり苦手教科の克服に焦点が絞られていたようです。また、この夏は中学三年生の申し込みも期待しましたが、もう一步でした。中三生は、まだまだ受験モードには達していないのかもしれませんが。

後期分申込み 八月十七日(月) 十三時から(湘南台スクール)

後期分の申し込み開始日時については、別紙「『弱点克服道場』のご案内」でお知らせしました。当日は混雑が予想されますので、お早めにお申し込みください。なお、以下の点に注意してお申し込みください。

- ① 四日分の授業(五十分×四)が一コースで、お一人二コースまで申し込みます。
- ② 教師一人に対して定員は生徒二人までとします。(変更点)
- ③ お申し込みは、受付順です。
- ④ 受講費用は、一コース二千二百円(税込)です。場所はすべて湘南台スクールです。(バスの送迎はありません)

eトレ学習システム



SHOSHINでは、eトレ特訓コースを開講しています。

このコースは、教科書や単元に合わせて、豊富に用意されたプリントを利用しながら、各自のペースに合わせて学習するシステムです。

もくもくとプリントを仕上げている生徒の様子に、このシステムの確かな手応えが感じられます。特に、苦手教科の復習と演習には最適のシステムです。この夏、時間を見つけて、この新たな学習システムにチャレンジしてみてください。

長文読解特別講座

九月から、中学三年生対象の「長文読解特別講座」が毎週土曜日(五時十分〜六時三十分)に開かれます。

クラスは、「英語長文読解クラス」と「国語説明文・古文クラス」の二つが併設されます。ふるって参加下さい。英語をほんとうに身につけるためには、たくさん長文に触れる必要があります。これは誰でも知っていることですが、通常授業の中で、長文だけを扱うことはなかなかできません。そこで、土曜日を利用して、「長文特講クラス」を開くことになりました。

国語の場合も同じです。入試ではやはり「説明的文章」と「古文」の読解が決め手になります。通常授業ではどうしても内申対策中心の授業を進めなくてはなりません。一方、読解力とはそう簡単に身につけることのできるものではないという問題もあります。読解力に不安を抱えている生徒はぜひ参加してください。古文では、基礎的な文法事項のマスターも必要になります。詳しくは別紙申し込み用紙をご覧ください。

のびる

夏休み講習会もⅡ期が終了し、ほぼ半ばまで進みました。二〇〇九年度のことになります。今年度から、小学部湘南コースと中学部を三月開講とし、年度変わりの矛盾を解消できるようにしました。中学受験コースは従来通り二月開講でしたので、二月・三月の時間割の編成が多少手こずりましたが、特に学年末テストを控えた中学部にとっては、カリキュラムの組みやすさや日程になったことと思います。▼昨年度の後期より始めた「弱点克服道場」が人気を集めました。講師の空いている時間をやりくりして、苦手教科・単元を個別に指導するもので、他塾に例を見ない格安の料金設定もあり、この夏の道場においては申し込み受付時に窓口に行列がでるほどの盛況ぶりでした。受講した生徒のテスト結果などを見ると、少しずつ効果が現れてきているように感じます。ご父母からの強いご要望もあり、できるだけ多くの生徒の面倒を見れるようにと、後期の道場は定員を見直して募集することになりました。また、六年受験生を対象とした「月曜特訓」も九月より始まります。中学別・単元別の講座を用意しています。▼公立中高一貫校受験を目指す「公立受験コース」の授業体系を見直し、週二日の授業のうち、一日を適性検査対策の授業、もう一日を国語・算数の授業とし、講師四人による指導としました。これにより、適性検査対策に偏った授業ではなく、小学校での授業や中学入学後の学力の安定を図ることが出来ます。毎月受験している有伸テストでもその成果は着実に現れてきています。また、担当講師が四人になったことにより幅広い視点からの受験指導が可能となりました。後期からは六年生を対象とした月曜特訓を開始し、適性検査の演習を行います。▼中学部では、二〇一一年度の新学習指導要領の完全実施へ向けて、理系科目中心に移行措置が始まり、テキストの見直し・作成の作業に追われた感があります。個人的には、現在後期テキストの作成に取りかかっているのですが、各教科とも綿密にカリキュラムの再編成を行い、対応にあたっています。▼各学年の父母会の方を見直し、中学部では「学習相談会」として、ご父母からの意見を聞きながら、ご相談に応じる形式とさせていただきます。また、父母面談の回数当初の予定より増やし、きめ細かい学習・進路指導を行えるようにいたしました。▼夏休み講習会が終われば、後期が開講します。中学生はすぐに期末テストがあります。また、六年生は合不合格判定テストや適性検査模試も始まります。受験に向けていよいよ後半戦がスタートです。(榎原)

